

## 易経に学ぶツキの真髄

# 自然の摂理を知り、 「変」のなかに活路を覓る

中国の古典「易経」が教えるツキとはどのようなものか。  
三〇年以上にわたって易経を研究し、

数多くの経営者に対してアドバイスを行ってきた  
易経研究家がツキを呼び込むリーダーになる生き方を指南する。

易経研究家

竹村亞希子



経営者の方々とお話ししていると、「今回の仕事はツイていた」とか「ツキに見放された」という言葉をよく耳にします。やはり、ツキを気にする経営者は少なくないのです。

私が研究している中国の古典「易経」で考えるツキは、一般の方々が使うツキとは少し意味が違います。たしかに世の中にはツキという現象はありますが、これに頼っていると、ツイている人もツキに見放された時に落胆し、ツキに振り回されてしまいます。

「易経」の考え方を知り、自然体で生

きるようになれば、ツキに左右されることなく、自らツキを呼び込むこともできるようになります。では、どうしたらツキを呼び込むことができるようになるのでしょうか。

### 「兆し」は、 時の方向を知らせるシグナル

まず「易経」について説明しましょう。「易経」という書物は、「書経」と並ぶ世界最古の書とされています。そして、「時」と「兆し」について記した専門書です。この「時」とは、単な

る時間のことではなく、「あの時は〇〇で着伏した」などという際の「時」です。つまり、環境や場所、状況、人間関係なども含んだものですね。「きざし」は、「萌し」という字を当てることができま

いふりをしたりしていたために、大問題に発展してしまったのです。一方、よいことも同様で、必ず兆しがあります。それに気づかずタイミングを逃せば、せっかくの福を十分生かせないどころか、福に転じてしまうこともあるのです。

春になって花のつぼみがふくらんだことをいう「萌し」。一方「兆し」はまだ現象として現れていない、隠れた物事のかすかな動きを意味します。

私たちに前もって変化を報せる「兆し」は、前兆、予兆という言葉もあるとおり、時の方向を示すシグナルで、どんな人でも、このシグナルを受け取っています。しかし、ほとんどの人は兆しに気がつきません。実際に起きた変化があつて、ようやく「あれがこの変化の兆しだったのか」と振り返るのがせいぜいです。

### すべては春夏秋冬のように 変化している

近ごろ、企業の不祥事が相次いでいますが、大きな事件の前には必ず兆しがあつたはずなんです。しかし、小さなクレームから始まった兆しを「たいしたことはない」ともみ消したり、見な

「易経」では「時中」という言葉がよく使われます。「時は時に、その時にびつたり」という意味です。たとえば、春に種をまけば秋に実ります。冬の水の上に種をまいたら、どんなによい種でも、実るところか芽も出

### 「時流」を追いかけず、 「時中」を知ること

「易経」では「時中」という言葉がよく使われます。「時は時に、その時にびつたり」という意味です。たとえば、春に種をまけば秋に実ります。冬の水の上に種をまいたら、どんなによい種でも、実るところか芽も出

## 易経の陰陽概念

陰	陽
地	天
夜	昼
悪	善
邪	正
止	動
弱	強
柔	剛
小	大
月	日
寒	暑
女	男
子	親
息	子
一	十



このように、陰と陽は変化し、絶対的な陰、絶対的な陽は存在しない

トセラーになった時には、すでにピークは過ぎていたのです。

私は、後継者育成に取り組むことをお勧めしています。ただし、勢いに任せて判断を誤らぬよう、そこに陰の要素、すなわち「聞く耳を持つ」

ベストセラー商品は、世間に一大ブームを巻き起こし、注目されるのですが、ある日突然売れなくなり、生産者が大量の在庫を抱えてしまうといったことが起きます。ベス

私は経営者の方から、とくに後継者問題について数多くの相談を受けますが、ご自分が元氣な陽の状態の時に、後継者選びや、後継者育成に取り組む

「変を導ぶ」実践の哲学です。変化するからこそ、成長と発展があるので。時の変化の道理を知り、陰陽いずれのなかにも、「得るもの」があることを知れば、どんな苦境も乗り切ることができるはずですよ。(談)

また力を発揮する時期でない時を「潜龍」と呼び、自分が「潜龍」にあたる人は、たとえば、この時期に大きなプロジェクトを引き受けても失敗する可能性があります。焦って早成を求めてはいけません。この時期は志

ツキの話に戻りましょう。人がツキを意識し、ツキが欲しいと思うのは、どんな時でしょうか。ズバリ、ツイていない時です。ところが、ツキを意識した時に限ってツキに逃げられます。その違いは、ベストセラー商品とロングセラー商品の論で説明するとわかりやすいでしょう。

努力し続ける研究部門があるように、陽を伸ばすのは陰の力なのです。企業では、社長が陽、社員は陰。陽の力だけでは、企業は成長できないのです。

「易は剛まれば変ず。変ずれば通ず。通ずれば久し」と書かれています。陽の時には陰の力を用いて高慢にならず、陰の時には陽に向かって実力を蓄えて待つ。こうした姿勢こそツキを呼び込むための近道なのです。易経は

## あらゆる事象には陰と陽がある

人生やビジネスがどのように伸び、どのように衰退していくかを龍の変遷にたとえて表現していきます。

必要があります。あらゆる事象には陰と陽がある。ツキの話に戻りましょう。人がツキを意識し、ツキが欲しいと思うのは、どんな時でしょうか。ズバリ、ツイていない時です。ところが、ツキを意識した時に限ってツキに逃げられます。その違いは、ベストセラー商品とロングセラー商品の論で説明するとわかりやすいでしょう。

「学が」といった姿勢をあえて生じせしめることが肝要です。受容の陰の力を用い、陽の行き過ぎを抑えるとき、はじめて「吉」の卦が記されるのです。

「学が」といった姿勢をあえて生じせしめることが肝要です。受容の陰の力を用い、陽の行き過ぎを抑えるとき、はじめて「吉」の卦が記されるのです。一方、経営者も会社も陰の状態、つまり業績が悪い時は、ついつい目も耳もふさいでしまいたくなりますが、そこから決して逃げたいけません。いま自分が置かれている状態を素直に受け入れれば、陰の時にしか見ることができない別の風景を見る事ができるはずですよ。そして、その別の風景は、間違いないあなたの一生の財産になる間違いなく吉へと向かうのです。易経には「易は剛まれば変ず。変ずれば通ず。通ずれば久し」と書かれています。

「学が」といった姿勢をあえて生じせしめることが肝要です。受容の陰の力を用い、陽の行き過ぎを抑えるとき、はじめて「吉」の卦が記されるのです。一方、経営者も会社も陰の状態、つまり業績が悪い時は、ついつい目も耳もふさいでしまいたくなりますが、そこから決して逃げたいけません。いま自分が置かれている状態を素直に受け入れれば、陰の時にしか見ることができない別の風景を見る事ができるはずですよ。そして、その別の風景は、間違いないあなたの一生の財産になる間違いなく吉へと向かうのです。易経には「易は剛まれば変ず。変ずれば通ず。通ずれば久し」と書かれています。

「学が」といった姿勢をあえて生じせしめることが肝要です。受容の陰の力を用い、陽の行き過ぎを抑えるとき、はじめて「吉」の卦が記されるのです。一方、経営者も会社も陰の状態、つまり業績が悪い時は、ついつい目も耳もふさいでしまいたくなりますが、そこから決して逃げたいけません。いま自分が置かれている状態を素直に受け入れれば、陰の時にしか見ることができない別の風景を見る事ができるはずですよ。そして、その別の風景は、間違いないあなたの一生の財産になる間違いなく吉へと向かうのです。易経には「易は剛まれば変ず。変ずれば通ず。通ずれば久し」と書かれています。

「学が」といった姿勢をあえて生じせしめることが肝要です。受容の陰の力を用い、陽の行き過ぎを抑えるとき、はじめて「吉」の卦が記されるのです。一方、経営者も会社も陰の状態、つまり業績が悪い時は、ついつい目も耳もふさいでしまいたくなりますが、そこから決して逃げたいけません。いま自分が置かれている状態を素直に受け入れれば、陰の時にしか見ることができない別の風景を見る事ができるはずですよ。そして、その別の風景は、間違いないあなたの一生の財産になる間違いなく吉へと向かうのです。易経には「易は剛まれば変ず。変ずれば通ず。通ずれば久し」と書かれています。

「学が」といった姿勢をあえて生じせしめることが肝要です。受容の陰の力を用い、陽の行き過ぎを抑えるとき、はじめて「吉」の卦が記されるのです。一方、経営者も会社も陰の状態、つまり業績が悪い時は、ついつい目も耳もふさいでしまいたくなりますが、そこから決して逃げたいけません。いま自分が置かれている状態を素直に受け入れれば、陰の時にしか見ることができない別の風景を見る事ができるはずですよ。そして、その別の風景は、間違いないあなたの一生の財産になる間違いなく吉へと向かうのです。易経には「易は剛まれば変ず。変ずれば通ず。通ずれば久し」と書かれています。

# SQUET 1

スケット

特集

## ツキを呼び込む

